公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace八千代		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日	～	2024年 11月 30日 2025年 2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 33名 34名	(回答者数)	24名 18名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日	～	2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができ、また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	保護者との共通理解	<ul style="list-style-type: none"> 相談を受けた際にはその内容を職員間で話し合い、保護者に伝えている。 不安に感じている事等、話が出た際には職員間で共有している。 	引き続き相談や不安事などのお話があった際には職員間で共有し、その対応方法を検討する。
3	個別のサポート	保護者や子どもに寄り添い、個別のニーズに合わせて、利用日数や送迎など可能な限り臨機応変に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> キャンセル待ちをして頂いている際、キャンセルが出た時には今後もお知らせをしていく。 地域交流も含め、近隣のお店でお昼ご飯を購入する等のイベントを開催する事で、お弁当作り等の負担の軽減を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	地域イベント参加の発信力	参加出来るような地域イベントがあれば状況に応じて参加を検討していく。
2	保護者の交流	保護者も参加した活動が少ない	運動遊びに招待する事で兄弟支援や保護者交流が出来るか検討していく。
3	事業所の設備	急な階段に怖いと思う子どもや保護者がいらっしやる	手すりがついているが、降りる際には職員が先に降りるなど危険の内容に安全面に配慮しながら今後も行っていく。